

○議長 横尾 武志君

再開いたします。

6番、本田議員の一般質問を許します。本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

皆様、おはようございます。6番、本田です。早速、一般質問通告書に沿って質問させていただきます。

まず件名、町内の交通安全対策についてお尋ねをいたします。

交通事故の発生は町民の安全・安心の生活を守る観点から、あってはならないものであります。しかし、町内の朝の通勤・通学の幹線道路を走っている車に目を向けますと、かなりのスピードで走行している車を見かけるものです。特に、信号機のある交差点では、信号が青から黄色あるいは赤に変わろうとするときには、さらにスピードを加速している車を見かけることも珍しくありません。事故が起きなければいいなと思いつつながら、通勤・通学の見守りをしているところです。ここ数年、交通事故の件数は車の性能の向上とともに減少しているようであり、これは大変喜ばしいことですが、目指すは発生件数ゼロだと思っております。

年末年始は交通量も増えることから様々な事故防止対策が計画されておりまして、本日12月11日は、福岡県において交通事故をなくす福岡県民運動が、年末の交通安全県民運動として定めている日付が今日から12月の31日までということで、スタートの日であります。そのチラシには幸せな家族が描かれておりまして、言葉としては「幸せな家族のママがいい！」「飲酒運転は、絶対にしない！させない！許さない！そして、見逃さない！」というふうに記載されております。願いは事故のないことが望まれるところです。

その今年の、年末の交通安全県民運動の重点項目が2つ書いてありました。1点目は「飲酒運転の撲滅」、2点目が「子供と高齢者の交通事故防止」であり、サブタイトルが、「横断歩道マナーアップ運動の推進」ということになっておりました。どちらの項目も詳細な項目が4項目ありますが、その中で2点目であります「子供と高齢者の交通事故防止」のことについて、4点触れさせていただきます。1点目が、「横断歩道が近くにある場所では横断歩道を渡りましょう。」2点目が、「夜間の外出には明るい服や反射材を身につけましょう。」3点目は、「運転者は早めのライト点灯、ハイビームの活用で歩行者の早期発見に努める。」最後の4点目が、「自転車保険に加入しましょう。」という4項目になっておりました。

芦屋町内におきましては、常日頃から交通安全対策として朝・夕の見守り活動に様々な諸団体の方々が参加をされ、安全対策に寄与されているところであり、参加されているボランティアの方々の思いは、安全・安心な毎日の生活が維持できること。お互いが思いやり、交通事故撲滅への基本動作である先ほど申しました4点等を守りながら、交通事故をゼロにすることが目的

令和2年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

だと思います。そこで、身近であります芦屋町内の現況についてお尋ねをしたいと思います。

まず1点目、ここ数年の、町内における交通事故の発生状況についてお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

芦屋町の交通事故件数については、平成30年は234件、令和元年は218件発生しています。そのうち人身事故はここ数年、毎年40件程度となっています。人口や交通量の違いはありますが、それらを考慮しても郡内において芦屋町での交通事故は少ないほうです。また、今年はコロナ禍で外出自粛による影響も考えられますが、1月から10月までで人身事故は13件で、前年の同時期の37件から約65%の大幅な減少となっています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今、御回答いただきました件数のことなんですけれども、その中で児童・生徒が被害に遭っている、あるいは75歳以上の高齢者が被害に遭っているというような詳細な件数が分かればということで、お尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

児童・生徒については、平成30年に1件、令和元年は1件、令和2年現在までゼロ件です。どちらも中学生です。75歳以上の高齢者については、平成30年は3件、令和元年は2件、令和2年現在まで1件となっています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

痛ましい交通事故はですね、ゼロに越したことはありませんが、発生している時間とか場所、例えば幹線道路が多いとか、路地とか交差点、横断歩道等々発生場所があらうかと思いますが、もしそういったものが分かるのであればということで、お尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

折尾警察署に問合せましたが、発生時間や場所などそこまでの情報はいただくことはできませんでしたが、横断歩道を横断中の事故件数の情報はいただきましたので報告いたします。平成30年に3件、令和元年も3件、令和2年は現在まで1件発生しています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今の発生件数を受けまして、今現在、芦屋町が取り組んでいる交通事故防止対策についてお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

芦屋町の交通安全の対策としては、新小学1年生に黄色い帽子を配付し通学時に着帽してもらい、登下校に不慣れな子供がいることをドライバーに知らせています。また、今年度から高齢者への免許返納促進事業を実施しており、返納者へは公共交通の利用券と併せて、歩行者として事故に遭わないように自動車のライトで光る反射材を配付しています。そのほかに区長や住民の方からの要望に対して、歩行者安全のための車止めの設置や道路の区画線の引き直し、道路標識の設置など、警察や道路管理者と連携し対策を進めています。

それから福岡県の交通安全運動に併せ、芦屋町では年2回、交通安全キャンペーンとして警察や交通安全協会その他関係機関と協力し、街頭指導やドライバーへの啓発物資の配布などを実施し、啓発に努めているところです。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

横断歩道付近での事故もゼロではないということで、次に、信号機のない横断歩道のさらなる事故の防止についてということで、お尋ねをしたいと思います。

先日テレビ番組で、信号機のない横断歩道の事故について特集があっておりました。この番組のきっかけは、外国人が日本に来て、「横断歩道が恐ろしくて渡れない。車が止まらない。」といったものがきっかけだったようです。年が明けますと、オリンピック・パラリンピックということで、たくさんの外国人が日本に来るようになります。それを受けまして警察のほうもさらに本

格的に、信号機のない横断歩道での一時停止、これについて取締りを強化、あるいは指導していくというようなことの番組でありました。

その特集された番組の内容は、信号機のない横断歩道での、事故が発生した状況というものからドライブレコーダーから抜き取った特集となっております。信号機のない横断歩道で、歩行者を優先するために一旦停車している車の後ろから追越しをして、横断歩道上で人と接触をしてはねたり、あるいは歩行者が、進入してきた車に驚いて慌てて危険を回避するためにもう一度歩道に戻るといったような映像が多数、テレビを通して流されておりました。また、この番組の中で、日本全国の都道府県で信号機のない横断歩道で、走行中の車は一旦停車をするのか、しないのかという比較がされておりました。一番交通マナーのいい県では、70%近くのドライバーが横断歩道に歩行者がいると一旦停車をするといった県から、10%以下、もうほとんど止まらないといった県までが紹介をされておりました。

一番この交通マナーのいい県民の方々に、その後番組の中でインタビューがあっておりましたけれども、内容は、70%近くのドライバーが「歩行者がいる横断歩道で一旦停車するのは、はっきりとした根拠としては言えないけれども、おそらく40年前に始めた、そして今も続けている交通マナーが県民に浸透しているのではないかと思っている。」と複数の方々がお答えをされておりました。信号機のない横断歩道で待っている人が、手を挙げて横断歩道を渡りドライバーに会釈をするといった行動であり、とてもシンプルな行動ですが、継続されていることがすばらしいと感じました。先ほど申しましたように40年続いているということですから、その当時の小学生が今は50歳前後になっており、ドライバーの多くが歩行者としての体験をしているということになります。

そこで私たちの住む芦屋町では、町内を走っている車は「町外から勤務に来られている」、あるいは「町民が通勤あるいは通学のために町外に出ていっている」、あるいは「買物等々含め町内を移動している」が、ほとんどのドライバーになるかと思えます。他の市町村のように通過しているだけの車両というものは、かなり少ないというふうに思っております。芦屋町の交通安全啓発活動の対策として、町民を対象としながらも特に児童・生徒の通学路にあっては、信号機のない横断歩道は手を挙げて渡ることを浸透していけば、かなり効果的と考えます。効果が実感できるのは時間が必要かと思いますが、実施に当たってはすぐにでも可能だというふうに考えております。

また、今はコロナの関係で無理かと思いますが、以前、私の記憶では、芦屋町に限らず横断歩道には両脇に旗が設置をされておまして、横断歩道を渡ると反対の設置場所に返して、横断中の歩行者の見える化が図られていたということが多数ありました。この設置に関しては予算も必要でしょうし、コロナ感染症のこともありますので今は無理かと思いますが、このコロナが収束し

令和2年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

た後には、アフターコロナとして交通安全対策にと考えることが町民全体のことと、それから通学路ということに特化してのことについて、いかがお考えかということをお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

まず、芦屋町での信号機のない横断歩道での事故件数ですが、平成30年に1件、令和元年に1件発生しています。信号機のない横断歩道については歩行者優先がルールとなっていますので、ドライバーの道路交通法違反となります。原因は、ドライバーが横断歩道付近にいる人がいないか確認しなかったこと、またドライバーへ横断歩道を渡るといふ歩行者側からのアピールが不足していることも考えられます。

JAF（日本自動車連盟）が毎年、信号機のない横断歩道で歩行者がいるときに車がどれだけ止まるのかという調査では、全国平均約8割が止まらないという調査結果になっています。芦屋町においても信号機のない横断歩道での事故は少ないものの、実際は歩行者がいるにもかかわらず、横断歩道を停車しないで通過している車も何度も見かけたことがあります。このことについては交通安全県民運動の重点項目の一つとして、先ほど議員も言いましたが、横断歩道のマナーアップの推進が掲げられていますので、大きく町の広報紙やホームページ等で取り上げ、交通マナーを意識して運転するようドライバーの意識改革に努めていきたいと考えています。

また、議員が提案された横断旗ですが、確かにドライバーへのアピールになります。しかし、最近どの町でもあまり見られなくなっていますので、まずその辺の調査を行っていききたいと思います。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

教育長。

○教育長 三柵 賢二君

学校教育のほうからお答えしたいと思います。

芦屋町の各学校においては学校行事や学級活動等、様々な場面を捉えて交通安全指導を行い、その中で、横断歩道を渡るときに気をつけること、先ほど議員が言われたように手を高く挙げて左右の確認をする、意思表示をする。そういったことや、運転手さんへのお礼等のマナー指導を行っています。特にマナー指導の例を挙げますと、ある小学校では児童集会での校長先生の話として、横断するときに待ってくださる左折車や右折車を含めた車の運転手さんに対して一礼することを指導しています。言葉ではなく横断中に一礼することを礼儀として奨励していて、この取組は、実は9月から始めております。

令和2年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

また、中学校では「横断歩道で車を止めたら、中学生が横断した後にお礼の会釈をしてくれました。とても気持ちがよかったです。」等の連絡が入ったときなど生徒の善行があった場合、各学級で学級担任から、あるいは全校集会等で生徒指導担当から伝えてもらい、そのような行為のすがるしさを語り、行動を促しています。

しかし、各学校ごとの取組としているために、徹底しているかといえばまだまだですので、今後は芦屋町全体の学校の取組として、このことを進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

今、御回答いただきました内容からしますと、児童・生徒の中はかなり手を挙げて渡る、そして会釈をする、お礼を言うということが浸透しているように思えますし、また、それを発表することによって横に展開されるということで、非常に横の広がり、縦の広がりを感じます。そういった児童・生徒たちがこれから先ですね、将来芦屋町を担っていく頃になると、非常にマナーアップのできた芦屋町になるのではないかなということで非常に期待できるかと思っておりますので、さらなる浸透をお願いしたいと思っております。

件名、次に移ります。巡回バス増便の効果等についてということで、町内巡回バスが今年の春から、2路線から3路線に増便をされて利用されているということになっております。町民の方には様々な影響が現れているかと思っております。

まず初めに、便数の増加に伴う効果ということで、運行路線の増加は以前よりきめ細かなコースが考慮され、利用者に便利になっているよう運行されていると思っておりますが、具体的にどのような効果が現れているのかお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

昨年度は、利用者が多くなる時間帯で定員いっぱいまで乗車し、積み残し客が生じていたのですが、現在のところ積み残し客は発生していません。これは3便になったことでもあります、路線を環状型から往復型に変更したことで、1コース7便運行が往復となったことで、実質、倍の14便運行の形になった効果と思っております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

利用されている町民の方々の方ですね、いいお話あるいは不便になったとかいうことも含めて、いろいろな声が役場のほうには届いているかと思いますが、具体的な利用者の声というものがありますか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

路線変更前に広報紙でお知らせした際は、「中央病院に行けなくなった。」など利用者が目的地に直接行けないことへの苦情の問合せが数件ほどありましたが、実際に運行が開始されてからは、往復型になったことで目的地が近いほどバスに乗っている時間が少なくなることから、「移動の時間が短くなった。」や、「目的地へ行くのに乗換えが必要になったが、そんなには苦にはなっていない。」などの声を聞いています。また、6月からタウンバスと市営バスの町内の移動が100円でできるようになったことから、「いろいろなバスを上手に使い分け利用している。」との声もあっています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

2路線から3路線へ路線が増便したということで、先ほど中身が、巡回方法が変わったということ、それから増えたことによって乗れない方がいなくなったということをお聞きしましたが、そういった変更をしたことについて、ほかに何かさらなる効果というものがあつたでしょうか。お尋ねします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

今回2便から3便に増便した理由は、今まで説明した時間の短縮や積み残し客の解消を第一に考えたものです。

まず、できる限り既存のバス停を利用できるコース設定を考えること。次に、高齢者が利用する巡回バスですので、運行を1時間周期にすることで分かりやすい時間設定としています。よく利用するバス停の第1便の時間が9時20分であれば第2便は10時20分というように、1時間周期で往来することで各バス停の発着時間を分単位で統一しています。遅延による調整時間と乗務員の休憩などを考慮し、1コース50分で往復し、10分待機となっています。

令和2年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

次に、一つのコースで全てのバス停へ行けなくなるので、それぞれのコースへ乗換えができる拠点や、タウンバスや市営バスにも乗り換えることができる拠点のバス停を設置することなど、このほかにも数点条件を設定し、これらをクリアするために1便増便したものです。また、コース変更に伴い、新たな目的地へ行けるようバス停を新設しました。北九州市営バスの向田営業所にバス停を設け、市営バスに乗り換えれば水巻方面へ向かうことができるようにしています。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

路線が増え、乗られる方が増えていきますと非常に喜ばしいことではありますが、今年は特に運行に当たってはコロナ対策が必要かと思われませんが、どのようなコロナ対策を講じているのかをお尋ねいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

まず運行の対策としては、運転席と乗車席を間仕切る透明カーテンを設置し、バス車内の換気、車内消毒を行い、乗務員については運行前後の検温やマスク着用の徹底などを行っています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

コロナ対策を取られているということではありますけれども、コロナ対策を取った上で、運行上ですね、支障を来しているようなことはありませんでしょうか。お尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

新型コロナウイルス感染症が拡大しだした当初は、消毒液などが手に入らず十分に対策が取れないこともありました。現在は運行に支障を来すことはあっていません。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

令和2年第4回定例会（本田浩議員一般質問）

町民の方々のいろいろなお声も聞かれているということですが、今後、利用されている方ですすね、意見はどのような形で集約をしていき、また、町民の声として運行上どう反映させていくのかということについてお尋ねをします。

まず初めに、9月に一部コースの変更というものがありませんでしたが、その理由についてお尋ねをいたします。

○議長 横尾 武志君

環境住宅課長。

○環境住宅課長 井上 康治君

8月に利用者アンケート調査、また、10月に担当者が乗り込み聞き取り調査を実施しています。また、各便の利用者数の調査と乗降バス停の調査も行っています。そのほかに電話や来庁されての御意見・御要望等もありますので、これらも含めて町民の声として集約しています。なお、定期的にアンケート調査は実施していく予定です。

この町民の声を集約し検討した結果、少し変更することで幾つかの御意見や御要望をかなえることができましたので、9月に一部コース変更などを実施しています。内容は、旧中央病院付近だった方々が役場まで来られるか、もしくは乗換えをしなくては現在の中央病院へ行けなくなっていたため、北と南のコースを一部変更し、どちらも利便性が向上するように変更しました。また、山鹿にあるドラッグストアに行きたいとの声も多くあったため、北コース上で一番接近する箇所に新規バス停を設置しています。

以上です。

○議長 横尾 武志君

本田議員。

○議員 6番 本田 浩君

利用されている町民の声というものがですね、たくさん反映されているというふうにも実感を感じました。ただ、町民の声というのはですね、声が聞きたいということで、待つだけではなく積極的にですね、町民の声をとりにいっていただいて、それをさらに利活用しながら、せっかく路線も増やしたことでありますし、たくさんの町民の方々に「あってよかった。」と思っただけのバス運行になればなということをお願いしながら、私の一般質問を終わります。

○議長 横尾 武志君

以上で、本田議員の一般質問は終わりました。